



今日のキーワード 注目されるインドの『金融セクター』

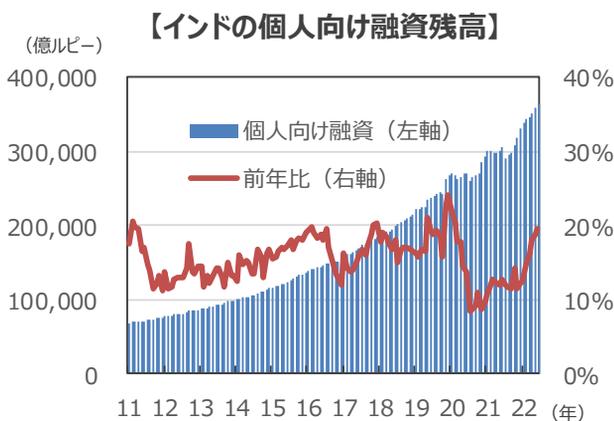
インドの『金融セクター』の企業業績が堅調です。経済が高成長するインドでは、『金融セクター』は成長産業の1つとみられています。コロナ感染の落ち着きで経済が再開し、住宅ローン、自動車ローンを始めとする個人向け融資が伸びています。また、景気回復に伴い、貸倒引当金が大きく減少し、企業業績を押し上げています。デジタルバンキングの普及や異なる業態とのM&Aを通じた成長機会も豊富にあり、注目されます。

ポイント1 インドの『金融セクター』の業績は堅調

- インドの『金融セクター』の企業業績が堅調です。MSCIインドの『金融セクター』の4-6月期1株当たり利益（EPS）は前年同期比+31%と大きく伸び、7-9月期も同+16%が予想されています（Bloomberg、10月11日時点）。この背景には、新型コロナウイルスの感染が落ち着き、行動制限が解除されたことによる経済再開で融資残高が伸びたことがあります。また、政府やインド準備銀行が不良債権処理のため実施した施策により不良債権比率が改善しているなか、景気回復に伴い貸倒引当金が大きく減少したことが挙げられます。

ポイント2 個人向け融資は長期的に拡大

- 生産年齢人口が急拡大する人口ボーナス期を迎え、高い経済成長を続けるインドでは、『金融セクター』は成長産業の1つとみられています。銀行だけでなく、専門分野に特化したノンバンクなど、多様な金融機関が存在しており、資金供給を通じて経済発展の一翼を担っています。
- 住宅ローン、自動車ローンを始めとする個人向け融資は長期的に高成長を続けています。新型コロナウイルスの感染拡大で一時伸び率が対前年比+8%に減速しましたが、足元では同+20%と、回復基調にあります。



(注) データは2011年3月～2022年8月。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 デジタルバンキングの普及やM&Aなど成長機会も豊富

- インドの『金融セクター』は、18年の大規模ノンバンクの破綻などにより一時信用不安が高まりましたが、政府やインド準備銀行の柔軟な諸施策により最悪期を脱し、財務状況は改善の方向にあるとみられます。インドの不良債権比率は21年3月期で7.3%と依然高いものの、18年3月期の11.2%からは低下しています。
- 国際通貨基金（IMF）は11日、世界経済見通しの改定で2023年の成長率見通しを2.7%に下方修正するなか、インドの成長率を6.1%に据え置きました。今後も、インド経済が高成長を続けるとみられることに加え、スマートフォン普及による金融サービスのデジタル化進展や、銀行とノンバンクなど異なる業態とのM&Aなどの成長機会も豊富にあるため、インドの『金融セクター』は中長期的な業績拡大が期待されます。

ここもチェック!

2022年9月16日 世界の株式が調整するなか、最高値をうかがうインド株
2022年7月25日 インドの株式市場を支える投信積立制度『SIP』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。